

国際都市・豊岡へ向けた まちづくりに関する調査・研究



一般社団法人豊岡青年会議所 2017 年度
国際都市開発委員会

目次

1. はじめに
2. 豊岡市の国際化への現状
3. 検証と考察
4. おわりに

1. はじめに

グローバル化が進む中、豊岡市は観光世界都市、グローバル教育と地域の国際化に取り組まれています。しかし、多くの市民において国際化は身近なことではなく、グローバル化が生活に影響を及ぼすまで問題意識がもてないように感じます。異なる文化をもった外国人たちとの共生を図り、共にまちの未来を考え行動しなければならない時がすでに訪れています。

国際化という社会問題も含め、市民一人ひとりがまちの問題点に目を向けると共に、持続性あるまちづくりを考えていくことが大切であります。この地域で住み暮らす我々市民が国際化を正面から向き合って考え、多文化が共生することであらゆる問題に多面的な解決策を見出されることを認識して頂くことにより市民の国際化への捉え方が変わることが考えられます。

本年度の活動では、多様な環境で生まれ育ってきた高校生と外国人の方々が国際交流を通じ、地域の国際化に対して考え、身近なことから取り組める国際化への提言を示すことで市民のまちづくりへの参画意識の高揚を図りました。

本調査・研究は、一年間の活動を「国際都市・豊岡へ向けたまちづくりに関する調査・研究」としてまとめたものです。

2. 豊岡市の国際化への現状

豊岡市には、平成 29 年 3 月末で中国、フィリピン、ベトナムなど 23 カ国 592 人の外国人が暮らしています。在住の外国人は微増に留まっていますが、全国的に増加傾向にあり豊岡市の外国人宿泊客数が平成 25 年には 10,000 人程度でしたが平成 28 年に 40,000 人を超えるなどグローバル化の進展により今後、観光客数と同様、定住者数も増加の可能性が高いと言えます。在住外国人の対応として、にほんご豊岡あいうえお、豊岡市国際協会などの NPO 団体が外国にルーツを持つ母親や子どもに日本語教育の支援や、市情報冊子の多言語化などの取組みが行われています。多文化共生の行政窓口は秘書広報課になりますが児童の学習指導補佐であればこども育成課、各種手続き、届け出等の窓口は市民同様の市民課、税務課等のそれぞれの課になり外国人に対して包括してケアをする窓口はなく、NPO 団体が日本語教育と共に育児相談などの生活支援も行っています。

在住の外国人方々は、集住されている地域もありますが市内各地域に少数世帯ずつですが住み暮らしておられます。地域との交流までは難しく、就労先の企業が語学研修などでの地域との関わりを勧められているところが見受けられます。異文化でのコミュニケーションの取り方は、言葉を覚えるだけでは解消しにくく、まだ異文化を受け入れていこうという気風にまではいかないのが現状と言えます。

【にほんご豊岡あいうえお】



英語でクッキング



就学説明会

3. 検証と考察

<検証>

事業名称 市民国際フォーラムTOYOOKA VISION

～明日への提言、あなたの一步が未来になる～

日 時 2017 年 6 月 18 日（日）

第一部 基調講演 13 時 00 分～14 時 00 分

第二部 市民プレゼンテーション 14 時 10 分～15 時 10 分

場 所 豊岡市交流センター豊岡稽古堂 3 階交流室 3-1

<第一部 基調講演>

【テーマ】「ドイツ人の禅僧からみる、多文化共生」

【講 師】ネルケ無方 氏

美方郡新温泉町 安泰寺 住職

【内 容】

16 歳で坐禅と出会い「禅の修行をしたいから」という動機で 1987 年に初めて来日、1990 年に留学生として再来日され、以来 26 年間、日本に住み続けている。日本の文化に魅かれ訪れた日本だが、自身がイメージしていた日本の姿とまったく違う光景にカルチャーショックを受ける。ドイツの文化との違いや、日本の国民や文化との共通する部分にも触れ、多文化が共生していくことの是非を独自の視点で見解する。

“訪日外国人が増えつつある日本ではあるが「多文化共生」の議論がまだまだ進んでいない。様々な人たちが集うことで風通しは良くなるだろう。しかし、社会を不安定にさせる要因にもなる” 禅僧であるネルケ無方氏の観点から、世界の中における日本がどのように存在感を打ち出していくのか、日本人が日本をどう考えるのか。我々、日本人や参加者にこれからの心の在り方を問いかける講演となった。



<第二部 市民プレゼンテーション>

【テーマ】 「ひらけ！豊岡の未来、外国人とつくる村おこし」

【出演者】 一般社団法人豊岡青年会議所 国際都市開発委員会委員

谷原、高岡、若宮君

豊岡市内高校生（24名）豊岡、総合、近大、出石高校（日高高校）

国際交流員（3名）兵庫県国際交流協会

在住の外国人（8名）ALT、にほんご豊岡あいうえお 日本語教室等

行政、関係各位（7名）秘書広報課、NPO ボランティアスタッフ等

※上記メンバー（42名）を3チームにチーム編成（事前ミーティング内）

【内 容】 外国人とつくる村おこしについてのプレゼンテーション。

全3回の事前ミーティングを通して豊岡市の国際化への問題点を抽出。チーム内で共有し3チームがそれぞれに村おこしについてのコンセプトを決めた。市民目線での要望、高校生からの柔軟な発想、地域での取り組み等を意見交換し、多文化が共生した社会がもたらす未来を思い描き、市民が明日から取り組めることを提言としてまとめたものを市民プレゼンテーションとして発表して頂く。

【市民プレゼンテーションの流れ】

↓ オープニング映像（1分30秒）

：3チームの事前ミーティングで提言を構築していく中での交流、協働する場面をまとめた映像を流す。

↓ 主旨説明 ：ワークショップに至った経緯、テーマの選定理由、構築した提言を聞いた人たちにどうなって頂きたいのかを伝える。

↓ 3チーム各10分間のプレゼンテーション

：メンバー全員がどのように関わり伝えることが参加者により分かりやすいかを踏まえ構築したものをプレゼンテーションする。

（パワーポイント・シミュレーション演劇）

↓ 各チームのプレゼンテーション後、市長・講師による講評

：率直な意見を頂き、より参加者に意味合いを深く理解して頂く。

↓ まとめ ：自分たちの地域は自分たちでつくることの目指すべきビジョン（目標）を見て頂いた。（共生から共創へ）国際化への取り組みによる未来であることを認識して頂く。

↓ 謝 辞

閉 会

【3 チームの提言】

1. チーム名 「アドベンチャーズ」

コンセプト 「食（農業から料理まで）を協働。外国人と交流盛んな活気溢れるまちにする」

内 容 「(仮称) とよおか農業共生派遣センターの創設」



耕作放棄地の活用、獣害対策などの農業従事者の高齢化により、現状の基盤を維持するために補いきれない労働力に対して、外国人に不足している労働力を補ってもらい、それぞれの国、文化を通じて経験してきたものを発揮できる活躍の場を提供することが、地域の活力につながっていくという提言でした。農業という農作物を作るという過程だけでなく、それを活かし食（ジビエ料理）にまですることで、従事者以外の市民に発信していく素晴らしい提言でありました。ジビエ料理の着目には、中貝市長も共感して頂きましたが、実働していくには多くの課題があるという指摘もあり、来場者に提言の内容がしっかりと伝わるプレゼンテーションになりました。



2. チーム名 「熱血」
 コンセプト 「文化の融合と交流」
 内 容 「体験型ホームステイ」

何のためにする？

豊岡市民と在住外国人が共働で事業を行うことで結束力を高め、豊岡の発展に繋げる。
 豊岡の魅力を発信し、外国人訪問客を増やすことで国際都市の推進に繋げる。

豊岡市の現状

- ・民泊への姿勢
 但東振興局では、交流人口の拡大や農家の副収入の向上を図るため教育民泊の取組みを支援
- ・民泊とは？
 一般の住宅や空き家の部屋を宿泊施設として提供すること

民泊の課題

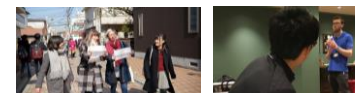
- ・騒音などの近隣トラブル
- ・清掃のマナー違反
- ・犯罪者やテロリストの温床
- ・匿名性(顔が見えない)
- ・違法薬物や売春等への不安

具体的に何をする？

- ・顔の見える交流
- ・日常生活、田舎暮らしを体験
- ・在住外国人との共働

体験型ホームステイ

- ・通訳
- ・体験プランガイド
- ・コンシェルジュ(相談窓口など)
- ・アドバイザー(宗教や文化の違いなど)



そうすれば豊岡市はどうなる？

- ・空き家を利用することで空き家対策、限界集落対策にもなる



そうすれば豊岡市はどうなる？

- ・豊岡の眠っている資源の掘り起こしや有効活用が図れる。



そうすれば豊岡市はどうなる？

- ・豊岡の魅力に関心を持った外国人観光客が増え、より国際的なまちになる



そうすれば豊岡市はどうなる？

- ・共働で事業を行うことにより豊岡市民と在住外国人の結束力が上がり笑顔あふれる豊岡になる



外国人観光客数が増加傾向にあることと地域の問題点とが上手く掛け合わせた提言でした。民泊については、旅館業を営まれる方には、問題提議される題材かもしれませんが空き家の活用という違った目的での利用促進は、外国人との協働や、地域の魅力を伝える機会へとなり異なる地域や文化の人による地域の発展につながることを期待できます。



3. チーム名 「ビックT岡」

コンセプト 「既存の地域の宝を活用し、外国人と交流の機会をつくり、お互いの理解を深めることで、多文化が共生した社会（国際都市）を実現する」

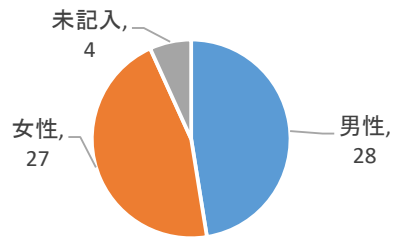
内 容 「豊岡の宝（お菓子）を用いて“世界のお菓子の聖地”に！！」





【アンケート集計】

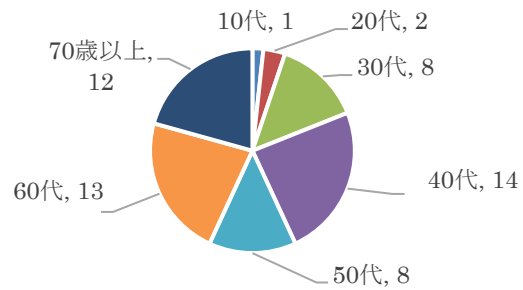
	回答総数 59		
【1】	【性別】		
	男性	女性	未記入
	28	27	4



■ 男性 ■ 女性 ■ 未記入

【年代】

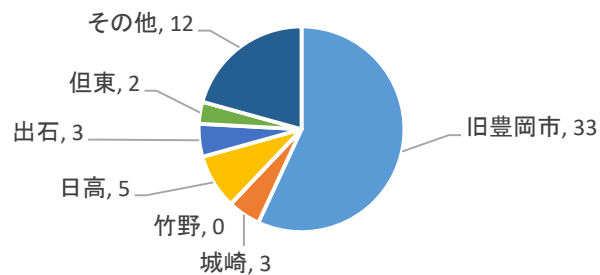
10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 歳以上
1	2	8	14	8	13	12



■ 10代 ■ 20代 ■ 30代 ■ 40代 ■ 50代 ■ 60代 ■ 70歳以上

【お住まい】

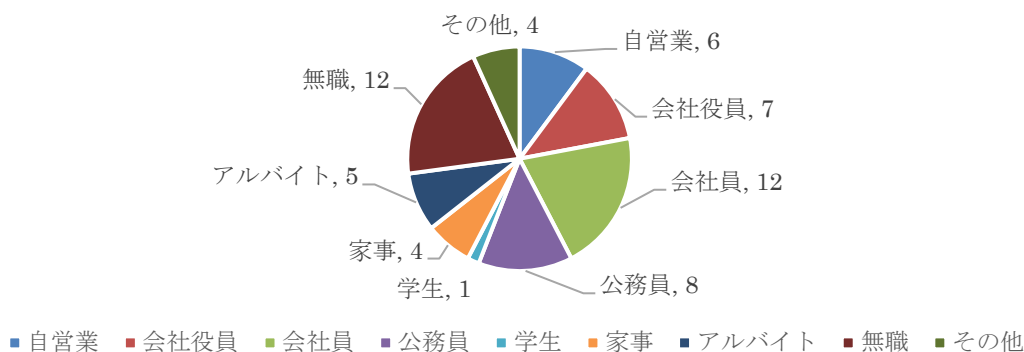
旧豊岡市	城崎	竹野	日高	出石	但東	その他
33	3	0	5	3	2	12



■ 旧豊岡市 ■ 城崎 ■ 竹野 ■ 日高 ■ 出石 ■ 但東 ■ その他

【ご職業】

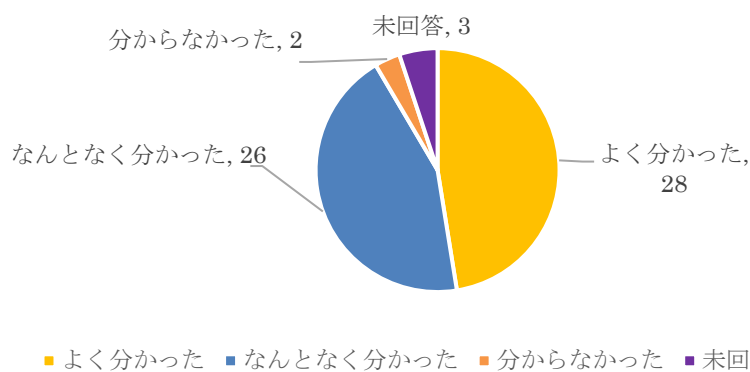
自営業	会社役員	会社員	公務員	学生	家事	アルバイト	無職	その他
6	7	12	8	1	4	5	12	4



【2】基調講演についてお聞きします。

1) ネルケ無方 住職 の講演にありました「多文化共生」は理解できましたか。

よく分かった	なんとなく分かった	分からなかった	未回答
28	26	2	3



2) 「多文化が共生すること」について（あなたの考えをお聞かせください）

・合併吸収ではなく小さな文化のほうもアイデンティティを失わないこと。
(50代・男性)

・日本もこれから増えてくると思います。

ネルケ氏のお話を聞くとやっていけるのかなと思えました。(50代・男性)

・郷に入れば郷に従えではなく、郷に入って他の文化を知ってもらい、そして郷の文化も尊敬することが大事。(50代・女性)

・我を出し過ぎず協調すること。(30代・男性)

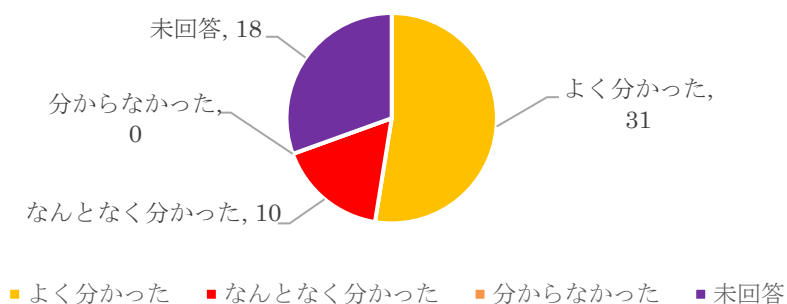
・日本の文化をよく知ることが基本。(50代・女性)

- ・自分のアイデンティティをキープしながら共生を考える。
少しでも実践するために何に取り組むか考えたいと思いました。（60代・女性）
- ・表面的なことだけで判断するのではなく、背景、価値観、自分が知らない
ということを知ることから始まる。（30代・女性）
- ・外国人というより一人の人間としてお互いに接することができればと思います。
（50代・女性）
- ・今後、必要。（40代・未記入）
- ・その国の育てられた文化を大切にして理解することでしょう。（70歳以上・男性）
- ・大事なことで豊岡でも早く根付くようでありたい。（70歳以上・男性）
- ・現実には難しいでしょうね。（40代・男性）
- ・多民族共生の在り方として「るつぼ形」と「モザイク形」があると言われる
自分は「モザイク形」を基本におさめることが望ましいと思う。（60代・男性）
- ・お互いのことを知って、お互いがゆずり合えること。（10代・女性）
- ・うまく共生しないと勿体ないと思う。（60代・女性）
- ・自分を創ると同時に自分を捨てること。（30代・女性）
- ・賑わうのは活気につながって良いと思います。（70歳以上・女性）
- ・お互いを理解すること。（30代・女性）
- ・良くない方向に行くと思います。（50代・未記入）
- ・難しいです。（50代・女性）

【3】 市民プレゼンテーションについてお伺いします。

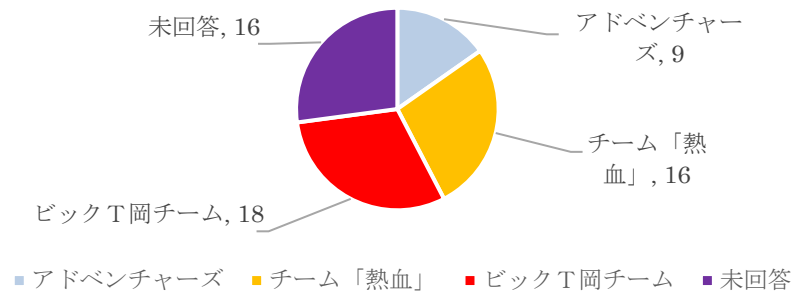
1) 市民プレゼンテーションは理解できましたか。

よく分かった	なんとなく分 かった	分からなか った	未回答
31	10	0	18



2) 印象に残ったプレゼンテーションは何でしたか。

アドベンチャー ズ	チーム「熱血」	ビックT岡チー ム	未回答
9	16	18	16



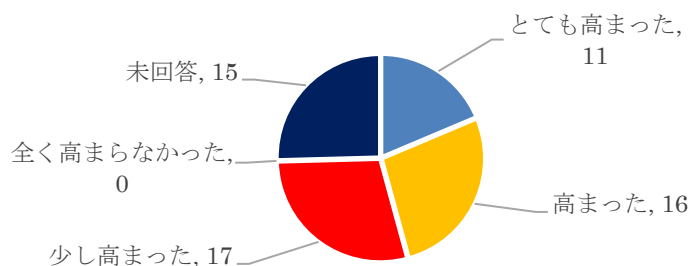
3) 「市民プレゼンテーション」について（あなたの考えを聞かせてください）

- ・狩りは楽しいのかもしれない。（30代・男性）
- ・学生、外国人等、立場の違う人たちが話し合いをしたことが良い。（50代・女性）
- ・高校生もよく街のことを見ているなと感心した。（30代・女性）
- ・ジビエ料理のお店があれば行きますよ。（70歳以上・女性）
- ・菓子⇒国際化は現実味がある。菓子 1925 もいいね！（40代・男性）
- ・お菓子は市民も違った楽しみが増えると思いました。（60代・女性）
- ・高校生とパネリストのやりとりが面白かったです。（40代・男性）
- ・高校生が良く頑張った。複数の学校の生徒の活動の実績を大切にしてほしい。（60代・男性）
- ・高校生だけでなく、色々な世代の参加があったら良かった。（60代・女性）
- ・足元を見つめ直すという事を高校生や参加者も感じれた。（40代・女性）
- ・高校生の主張に市長が意見を述べる事が素晴らしいと思います。（40代・女性）
- ・とても良いアイデアだと感心しました。形にしてほしいです。（40代・男性）
- ・改めて、ふるさと豊岡を振り返る機会を頂きました。（60代・女性）
- ・市長とネルケさんの意見、良かったです。（70歳以上・女性）
- ・まず、やってみることだと思います。とても面白そう。（20代・男性）

【4】 本日を通してお伺いします。

1) 「まちづくり」に参加する意識は高まりましたか。

とても高まった	高まった	少し高まった	全く高まらなかった	未回答
11	16	17	0	15



■ とても高まった ■ 高まった ■ 少し高まった ■ 全く高まらなかった ■ 未回答

2) 明日から豊岡市の国際化へ向けあなたが取り組めることを教えてください。

- ・身近でできることから。(70歳以上・女性)
- ・まず、日本の文化、歴史を勉強しなおす。(50代・女性)
- ・自分の足元を見つめることから始めたいと思います。(30代・女性、40代・男性)
- ・異文化に対し、互いを尊重して接することです。(40代・男性)
- ・正しい日本語、日本文化を子どもたちに伝えること。(40代・女性)
- ・継続してこの事業を進めてほしいと願います。(40代・男性)
- ・日本語のボランティアでお役に立てればと思います。(60代・女性)
- ・外国人観光客を増やす方法はホームページだと感じました。
出石そばの英語のホームページから始めます。(50代・男性)
- ・日本を知る。但馬を知る。(40代・男性)
- ・町内に住んでおられる外国人の方に笑顔で声をかけることから始めたいと思います。(60代・女性)
- ・言葉を学ぶ、道に迷っている人を助ける。(40代・男性)
- ・60年生きてきた歴史や知恵を身近な人に伝え、その輪を広げていけたら最高ですね。(60代・女性)
- ・見守っていく。(70歳以上・男性、70歳以上・女性)
- ・協力できることがあればします。(30代・男性)
- ・エスペラント語を学ぼう。(30代・男性)
- ・適応力を培う。(40代・未記入)
- ・挨拶くらい話せるように英語を勉強しようと思う。(30代・女性)
- ・しゃべれなくてもコミュニケーションをとろうとすること。(50代・女性)
- ・アートで雪国の人々の粘りと知恵を広めたいものです。(60代・男性)

- ・人口減少に伴う、多国籍化を受け入れていく覚悟。（30代・男性）
- ・様々な国の人々と知り合い、他国の事、自国の事を知ること。（10代・女性）
- ・城崎で旅館業を営んでいるので、小さな世界都市豊岡の取り組みにマッチしたサービスを提供することから始めます。（40代・男性）
- ・外国で暮らす親族の但馬観光案内。（60代・男性）
- ・身近なことに興味をもつこと。（30代・女性）
- ・まずは村おこし。（60代・女性）

<考察>

第一部 基調講演では、国際化ということを「多文化共生」をキーワードにネルケ無方住職からご講演を頂きました。多文化共生は、皆が同じ色に染まることをいうのではなく、異なる文化や人権は平等であり、認め合うことが共生であり、自分を知り、相手を知ることだとお伝え頂きました。多くの参加者は、国際化に目を向ける必要性を感じており、多文化が共生していくことが一刻も早く市民に根付くことを切望される意見もありました。慎重な意見もあり、安易に推し進めることを危惧される意見です。否定的な意見が少なく多文化が共生していくことに一定の理解があることからグローバル化の進展を必然と感じていることが見受けられます。

第二部 市民プレゼンテーションでは、まちの問題点に国際化をどのように向き合っていけば国際化を地域の魅力に変え、持続可能なまちづくりを維持・発展していくのかを市内高校生、在住の外国人、兵庫県国際交流員、にほんご豊岡あいうえお、市役所職員を含める42名で事前に3回のワークショップを重ね、制作してきた提言を市民に向けプレゼンテーションを行いました。「地域の高齢化に伴う就農者不足」、「過疎化に伴う空き家対策」、「豊岡のメインストリートの賑わいを創出していくこと」という3つの問題点から提言をしました。

「地域の高齢化に伴う就農者不足」という問題点では、人材という視点に目を向けてしましますが、外国人と共生している地域を考えると、異なる文化が地域や外国人にとって活躍の場になることは、お互いを尊重し合える機会となることが言えます。日本の農業を学ぶこと、日本人が異なる文化を学ぶことという対等な関係性は、共生していくことに直結していくことが考えられる提言であることが言えます。人材派遣を考えると高齢者によるシルバー人材センターがありますが定年を迎えた高齢者が今まで培ってきた技術や経験は、地域において財産であるという考え方は、外国人においても同様であるように考えられますが、運営側が国の規則に沿っての運営であり、外国人は対象となりません。企業就労では単純労働の雇用が多く、高度人材としての雇用は現在豊岡市にはございません。外国人が活躍する環境で考えると、文化や経験を活かした雇用は現状見受けられないと考えられます。そういった点においても提言にある外国人の雇用は、今後、可能性がないことではないと考えます。

「過疎化に伴う空き家対策」では、民泊という課題の多いものがベースではありますが、お互いの文化の体験を基にした観光プランにしていこうとすることで共生していくことを観光資源として地域の魅力の一つに変えることができます。空き家対策を重点とした提言であり、活用には法整備や利用者に制限を設けるなど規制が必要になることが考えられますが、提供者も利用者も共生を楽しむことが期待できる提言であります。

「豊岡のメインストリーットの賑わいを創出していくこと」ですが豊岡の宝（お菓子）を用いて世界のお菓子の聖地にするという発想は、グローバル化を上手く活用している提言であると言えます。お菓子発祥の地であるという他には代えがたい事実が基にあることで豊岡でしかない魅力をより一層、輝かせるものになることが期待できます。世界中のパティシエが試作と品評会ができる施設として豊岡1925の活用は宿泊施設やホールがあるなど諸条件を見れば実用性は高いと言えます。城崎アートセンターの活用である「アーティストインレジデンス」はフランスで17世紀から、それに類した活動が行われていました。文化を尊重したことが起源であり豊岡の宝（お菓子）を尊厳していくことにつながります。交流という点においては、表面的になることが考えられますが定住外国人が増えていくことは多文化共生に対して意識を促進していくことにつながり、市民の問題意識が高まっていくことが考えられます。

3つの提言は、それぞれに国際都市・豊岡の実現に向けて現状の問題点に対して交流をベースにした提言にまとめることができたと考えます。実用性を考えるとまだ、検証する余地はありますがどの提言も実現することで豊岡市が市民主体のまちづくりを持続可能な形につなげていくことが期待できます。そして、多文化が共生することで見える未来を地域一丸となって取り組めることが重要であると考えます。

4. おわりに

豊岡市の国際化は、今はまだ従事する方が少なく、市民にとって問題として映らないのかもしれませんが。少子高齢化と人口減少が起因する様々な問題に対してグローバル化をどのように捉え、向き合っていくのかは、今後益々、議論を重ねていくことが必要であります。世界に対して閉鎖的な姿勢をアメリカ合衆国がとっていくことはアメリカ合衆国にとって必要と判断され行動されているように日本では多文化が共生する社会が必要なのか、豊岡市では国際化をどのように向き合えばよいのかを市民一人ひとりが真剣に考えていかなければなりません。グローバル化という地域の問題に対して自分たちの地域は、自分たちでつくるという認識を一人でも多くの市民がもつことによりに市民が主体となるまちづくりにつながるすることができます。

豊岡市の国際化を考え、地域の問題点を共有し、まちづくりに対して協働していき、国際化に向き合うことで導かれる未来を思い描いて頂くことを事業という形にさせて頂きました。事業を構築していく中では絵空事のように捉えられ、現実味のない意見に指摘を受ける場面もありました。確かに自分事と捉えることが難しく、当事者にとって多文化が共生することは非常にデリケートな問題であることを学ぶ機会にもなりました。本事業の開催にあたり多くの方々にご参加、ご協力頂きましたことを深く感謝申し上げます。

事業を通じ、豊岡市の魅力を再認識して、まちづくりに興味をもって頂けた参加者がいてくれたことは、今後、豊岡市の大きな財産になることは違いありません。これからの豊岡市が我々の描いたビジョンのように輝かしいまちにつながることをご祈念、ご期待申し上げます。

一般社団法人豊岡青年会議所 2017 年度

国 際 都 市 開 発 委 員 会

委 員 長 池 垣 睦 生

副 委 員 長 飯 田 雄 樹

委 員 谷 原 寛

委 員 高 岡 正 博

委 員 若 宮 顕 仁

担当副理事長 浜 田 裕一郎